




令和6年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
萩市立川上中学校	学級数：2学級 生徒数：7人

令和6年10月1日(火)	第1・2学年	教科 保健体育
題材名(演題)「健康な生活と疾病の予防」～がんについて身近な人に伝えたいこと～		
がん教育において取り組む具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは(がんの要因等)	<input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過	<input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況
<input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防	<input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診	<input type="checkbox"/> カ がんの治療法
<input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア	<input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質	<input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生
使用教材等		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校・高等学校版 スライドモジュール1、2、3、4、5(一部抜粋) ・ 萩市健康増進課提供資料 		
授業(講演会)の内容(流れ)		
1 がんについて知っていることやイメージについて話し合う。		
2 がんについて知る。		
3 がんが発生する原因が何かを考える。		
4 講師講話をきく。		
「がんになるということ、がんに関わるとということ」		
5 講話や萩市健康増進課からいただいた資料を基に、がん検診を受けない未受診者にがん検診を受けてもらうにはどんな声かけをするか考える。		
(萩市健康増進課資料)		
○がん検診受診率(全国、県、市)		
○がん検診を受けない未受診者の理由		
①「毎年受ける必要を感じない」		
②「検査に伴う苦痛に不安がある」		
③「めんどうだから」		
④「心配な時はいつでも医療機関を受診できる」		
6 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。		
外部講師との連携		
梶野 統胤(ますの とういん)氏		
光市 普賢寺(ふげんじ)住職 認定臨床宗教師 病院ボランティア (徳山中央病院、岩国医療センター)		
成果と課題		
講師の講話から、健康について考えるきっかけとなり、話し合い活動も活発であった。普段では聞けない患者の方やご家族の話もあり、生徒も真剣に聞いていた。		
また、授業前後のアンケートから、「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」の項目で、「そう思う・どちらかと言えばそう思う」の回答が42.9%から66.7%へ向上した。保護者世代からがんに関わる確率が上がるため、家族で健康について話すきっかけとなしてほしい。		
一方、内容が多く、50分では時間が足りなかった。次回は内容や時間の検討が必要である。		

令和6年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
長門市立仙崎小学校	学級数： 2学級 児童数： 37人

令和6年10月7日(月)	第5学年	教科 特別活動
題材名(演題) 「がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために」		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは(がんの要因等)	<input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過	<input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況
<input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防	<input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診	<input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法
<input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア	<input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質	<input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生
使用教材等 外部講師による講話		
授業(講演会)の内容(流れ)		
<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の現在や未来の健康について考える。 2 がんの現状について知る。 3 がんの原因について知る。 4 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 5 がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がどんなことに気をつけて生活するか。 ・ 大切な人にどんなアドバイスをするか。 6 本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。 		
外部講師との連携		
「Pink Ring」西日本 branch 代表 井上裕香子 氏		
成果と課題		
(成果)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前は、がんは自分と関わりのない病気だと考えている児童が多かったが、授業後のアンケートではがんについての関心が高くなっていた。 ・ 外部講師の先生の話が丁寧で、児童にもわかりやすく、いつもとは違う緊張感の中、がんについてみんなで考える時間を共有することができた。 ・ 授業後の振り返りの中で、がんが身近な病気であることや自分の生活習慣の見直しについて考えている児童が多く見られた。 ・ 外部講師の話聞き、がんへの知識が深まるとともにがん患者の方に対して自分にできることを考えようとする態度が身に付いた。 		
(課題)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の実践が、その場限りのものにならないよう、これからどのようにがん教育を進めていくのか、どのように関心を維持していくのかを課題に感じた。 		

令和 6 年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書

防府市立華城小学校

学級数：4 学級

児童数：140 人

令和 6 年 10 月 18 日 (金)

学年 第 6 学年

教科 特別活動

題材名 (演題) 「がん患者の思い」～がんになった私が伝えたいこと～

がん教育において取り扱う具体的な内容

- ア がんとは (がんの要因等) イ がんの種類とその経過 ウ 我が国のがんの状況
エ がんの予防 オ がんの早期発見、がん検診 カ がんの治療法
キ がん治療における緩和ケア ク がん患者の生活の質 ケ がん患者への理解と共生

使用教材等 (事前指導)

- ・小学校版 映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」(文部科学省)

授業 (講演会) の内容 (流れ)

- 1 講師の自己紹介
- 2 がんの原因・現状について知る。
- 3 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。
- 4 がんになったときの気持ちを知る。
- 5 がん患者が望んでいることを知る。
- 6 授業でわかったことを大切な人 (家族) に伝える
ことの重要性について理解する。



(講演後教室で) 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。

(宿題) 学んだことを保護者に話し、ワークシートにコメントをもらう。

外部講師との連携

ポポメリー代表 藤本 育栄 氏

成果と課題

事前・事後アンケートの比較より、講演会を通して、がんが日本人の死因の第 1 位であることや早期発見をすれば治りやすいことなど、がんに関する知識を正しく理解している児童が増えていた。また、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」や「がんになっても生活の質を高めることができる」「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」という質問に肯定的な回答をした児童が増えており、講師の先生が話された内容を反映した結果となっていると考えられる。


また、児童の振り返りより、自分の周りの人の元気がないとき、「支えたり、応援したりしてあげたい」「優しく話を聞いてあげたい」「寄り添いたい」という意見が多くあった。


さらに、保護者より、「身近にがん闘病中の者がいるので、本人にはいい勉強になったと思います」「がんに関する正しい知識を学び、患者への理解、いのちの大切さについて考える機会になったと思う。今の自分にできること、家族を想う気持ちが本人の話から伝わり、家族で『健康』について考える時間を作ろうと感じた」「私たちの時はこのような学習がなかったため、子どもの頃はがんについてあまりわかってなかったです。でも、こうやって子どもの時からがん教育をしていただけたこと、ありがたいです」といったコメントがあった。

今まで実施していなかったがん教育を今年度初めて実施したことによって、教職員への啓発にも繋がった。

課題としては、今後同様のがん教育を継続実施していくために、講師を呼ぶための予算の確保が必要であること、実施時期の検討 (行事の多い 2 学期を避ける、効果を上げるために保健の授業でがんを取り上げる時期に合わせる等)、担当者の検討 (学年部主導がよいのか、養護教諭主導がよいのか) などが挙げられる。

令和 6 年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
岩国市立装港小学校	学級数：8 学級 児童数：68 人

令和 6 年 11 月 1 日 (金)	第 6 学年	教科 保健
題材名 (演題) 自分や大切な人のために自分ができることを考えよう		
<p>がん教育において取り扱う具体的な内容</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>ア がんとは (がんの要因等) <input type="checkbox"/>イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/>ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/>エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/>オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/>カ がんの治療法 <input type="checkbox"/>キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/>ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/>ケ がん患者への理解と共生 </p>		
<p>使用教材等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校版 がん教育プログラム 補助教材 (文部科学省) ・ 〈小学校 5～6 年用〉 がんを知り理解しよう (山口県) ・ 小学校版 映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」 		
<p>本時の流れ</p> <p>1/2 時 めあて「がんについて正しく学ぼう」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 がんについて知っていることを話し合う。 2 映像資料からがんについて理解する。 映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」 視聴、資料配付。 3 がんに関連したクイズをする。(まとめ) (日本の現状やがんの種類、生活習慣とがんの関係) <p>2/2 時 めあて「自分や大切な人のために自分ができることを考えよう」(外部講師活用公開授業)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返り (がんの正しい知識、がんができる仕組み、がんの予防) 2 がん経験者の体験談を聞く。 3 がん経験者の体験談を聞き、感想やこれからの自分のできることを考える。 		
<p>外部講師との連携</p> <p>がん経験者 中平 雄介 氏</p>		
<p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がん経験者から健康な日常が当たり前ではないことを教えていただき、生活習慣や定期健診の大切さを認識できた。 ・ 「がん」にかかったら、おしまいではなく、治療しながらでも、夢に向かってチャレンジできること、そして、日々の生活の中で、色々なことをあきらめず努力することの大切さなど、今すぐ生かせるメッセージも子どもたちの心に響いた。 ・ 「がん」の罹患率が高くなったとはいえ、がん経験者の方から直接その体験を聞く機会は、非常に少ない。そのことから、今回の学習は、非常に貴重な機会となった。もっと多くの保護者や地域の方にも聞いて頂き、「がん」を身近なこととして考え、一緒に語り合えると良い。 ・ 「がん教育」を通じて、健康な体づくりに取り組もうという意識は高まったが、日々の生活習慣の改善につなげるためにも、継続的な働きかけが必要である。 		

令和6年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
山口県立防府西高等学校	学級数：12学級 生徒数：428人	
令和6年11月13日(水)	第3学年	教科 LHR活動
題材名(演題)「がんになって見えたもの」～若年性乳がん体験者として～		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは(がんの要因等)	<input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過	<input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況
<input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防	<input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診	<input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法
<input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア	<input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質	<input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生
使用教材等		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校版 映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」 ・ 中学校・高等学校版 スライドモジュール1、2、3、5 		
授業(講演会)の内容(流れ)		
<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の現在や未来の健康について考える。 2 がんの現状について知る。 3 がんの原因について知る。 4 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 5 がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がどんなことに気をつけて生活するか。 ・ 大切な人にどんなアドバイスをするか。 6 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。 		
外部講師との連携		
井上裕香子氏 氏 (Pink Ring 西日本 Branch 代表) に講演を依頼し実施		
成果と課題		
<p>近年2人に1人が罹患するといわれるがんについて、生徒はまだ非現実のような捉え方をしているように感じられる中、今回の講演でがんを身近な病気と実感し、がんの早期発見のための定期的な検診の重要性に気づけたことがアンケート結果からもうかがえた。将来に向けて、自身を取り巻く様々な境遇にある人々の理解に努め彼らと共生できる社会を作るためにはそれぞれの他者を思いやる気持ちを深めなければならないことなど大変貴重な学びの時間となった。課題としては、今回、聴講者を校内の生徒、教職員に限ってしまったため、次回は保護者、地域の方々にも案内し広くがんについての意識高揚を図りたい。</p>		

令和6年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書

山口県立防府高等学校

学級数：21学級 生徒数：827人

令和6年12月10日(火)

第1学年

教科 保健体育

題材名(演題)「がんとともに生きる社会」

がん教育において取り扱う具体的な内容

- ア がんとは(がんの要因等) イ がんの種類とその経過 ウ 我が国のがんの状況
エ がんの予防 オ がんの早期発見、がん検診 カ がんの治療法
キ がん治療における緩和ケア ク がん患者の生活の質 ケ がん患者への理解と共生

使用教材等

- ・中学校・高等学校版 がん教育プログラム 補助教材(文部科学省)
(スライドモジュール①～⑦・⑨(資料スライド含))
- ・がん教育に関する映像教材(インタビュー動画)(文部科学省) 他

講演会の内容(流れ)

- 1 日本におけるがんの状況
- 2 がんという病気
- 3 がんの発生と進行
- 4 がんの原因
- 5 がん早期発見・検診
- 6 がんの治療法
- 7 がんの治療における緩和ケア
- 8 がんとともに生きる



- ・事後アンケートを実施

外部講師との連携

高田 千鶴 氏(山口県立大学 看護栄養学部 看護学科 講師)


成果と課題

「がん」という病気の発生や進行、原因について、保健で学んだ授業内容に加え、さらに多くの正しい知識を得ることができ、がんに対する理解を今まで以上に深める貴重な学びの時間となった。特に、全国と山口県におけるがん検診率などのデータ比較をすることで、山口県の現状を知ることができ、がん検診による早期発見の重要性を改めて学ぶことができた。

また、講師自身の経験談やがん経験者のインタビュー映像などを通して、がん患者の方々の気持ちに加え、家族や仲間を支えあうことの大切さを考える良い機会となった。


今後、このようながん教育を継続して実施していくことにより、がんの検診率や生活習慣の改善だけでなく、自分だったら何ができるのかということを考えて実行する力(実践力)を高めていくことが重要であると考えます。

令和6年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
阿武町立阿武中学校	学級数：5学級 生徒数：59人

令和6年12月12日(木)	学年 全学年	教科等 保健体育
題材名(演題) 「予防できるがんがあるって知っていますか？」		
がん教育において取り扱う具体的な内容(複数選択可)		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは(がんの要因等)	<input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過	<input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況
<input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防	<input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診	<input type="checkbox"/> カ がんの治療法
<input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア	<input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質	<input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生
講演会の内容(流れ)		
1. がん予防のための健康習慣		
2. HPVとは		
3. HPV感染によるがんについて(子宮頸がん、中咽頭がん等)		
4. 子宮頸がん予防の手段		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子宮頸がん検診率：日本、山口県、阿武町の現状 ・ HPVワクチンについて：種類、副反応、公費負担 等 		
5. 動画視聴：「子宮けいがんってなんなん!？」 2022年度版(岡山県作成)		
6. 質疑応答		
		
外部講師との連携		
学校薬剤師 河村 明美 氏		
成果と課題		
(成果)		
○講演会後の振り返りでは、「20歳になったら検診を受けたい」「今回学んだ内容を家族にも伝えたい」と記入している生徒が多くみられ、がんは身近な病気であることや早期発見・早期治療の重要性について理解し、自他の健康の大切さを再認識することができた。		
○HPVワクチンについて正しい情報を知り、「家族に相談したい」「接種してみようと思う」「よく知らずに接種したが大切なものだったのだと分かった」と自身の接種の必要性を考え、自己選択する機会となった。		
○地域の保健師の方々にも講演会に参観していただき、今後、連携したがん教育を推進しやすくなった。		
(課題)		
○生徒や保護者、教職員ががんに関する理解を深めるためには、外部講師と連携したがん教育を継続的に実施していく必要がある。		
○今回は生徒のみ対象の講演会としたが、今後は保護者・地域の方々にも公開し、講演を聴く機会を広げられるように取り組む。		

令和 6 年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
山口県立宇部商業高等学校	学級数：12	生徒数：325人
令和6年12月18日（水）	全校生徒	教科 LHR
題材名（演題）高校生に知ってほしい癌のこと		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等）	<input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過	<input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況
<input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防	<input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診	<input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法
<input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア	<input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質	<input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生
使用教材等 がん教育推進のための教材 日本のがんの現状（文部科学省） がん治療の支援		
授業講演会の内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1 がんって、何だろう。 2 がんの現状（種類）について知る。 3 がんの原因について知る。 4 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 検診の重要性、大切な人への声掛け 5 予防できる「がん」。 胃がん・肝がん、肝硬変・子宮頸がんなど 6 がんにかかるリスクを減らすために、何ができる か考える。 7 がん治療の支援 8 緩和ケアとは 9 質疑・応答 		
外部講師との連携		
山口大学医学部付属病院 腫瘍センター准教授 井岡 達也 氏		
成果と課題		
<成果・課題> <ul style="list-style-type: none"> ・がんについての正しい知識を学び、理解することができた。 ・日本人の2人に1人ががんになっている状況を理解し、身近な病気として捉えることができた。 ・早期発見・早期治療が重要、がんのこと、検診のこと、家族でのコミュニケーションを大切にし、後悔しないことが大切。 		

令和 6 年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
山口県立田布施農工高等学校	学級数：12 学級 生徒数：328 人

令和 6 年 12 月 19 日 (木)	全 学 年	教科等 特別活動
題材名 (演題) 「がん患者の思い」～がんになった私が伝えたいこと～		
がん教育において取り扱う具体的な内容 (複数選択可)		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは (がんの要因等)	<input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過	<input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況
<input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防	<input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診	<input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法
<input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア	<input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質	<input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生
使用教材等		
がん教育推進のための教材 補助教材 (文部科学省)		
・ 中学校・高等学校版 スライドモジュール 1、2、3、4、5		
授業 (講演会) の内容 (流れ)		
<ol style="list-style-type: none"> 1 がんについて <ul style="list-style-type: none"> ・ がんとは ・ がんのしくみ、原因 ・ がんのリスクを減らすために ・ がんの治療法 2 私のがん体験談 <ul style="list-style-type: none"> ・ がん患者になっての気持ち ・ ポポメリーの活動について 3 今を生きる君たちへ <ul style="list-style-type: none"> ・ がん患者の生活の質について ・ 山口県及び田布施町のがんの現状について 		
外部講師との連携		
ポポメリー代表 藤本 育栄 氏		
成果と課題		
(成果)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師より、がん経験者の思いを知り、自分や周囲の人ががんになったとき、どう行動したらよいかを主体的に考えることができた。 ・ がんは誰もがなり得る病気であることを理解し、自分事として捉えることができた。また、早期発見のための検診や生活習慣の見直しなど、自分にできることを考えることができた。 ・ 今回は学校保健委員会としての実施であったが、健康診断後の受診率について課題があることを講師にお伝えしたところ、講演の中でもがん検診受診と結び付けて触れていただいた。本行事においてのテーマに一貫性を持たせることができ、健康診断後受診率の向上につながった。 		
(課題)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の学習においてがんについての基本的な知識が定着しておらず、生活の質や緩和ケア等については理解を深めることができなかった。実施形態について、さらに検討を進める必要があると感じた。 		